

2. 研究の詳細

プロジェクト名	福岡における筑前琵琶の伝承と創造をめぐる基礎的調査		
プロジェクト期間	平成 30 年度		
申請代表者 (所属講座等)	山本 百合子 (音楽教育講座)	共同研究者 (研究協力者)	寺田 蝶美 (学外 ; 筑前琵琶奏者) 前原 恵美 (学外 ; 東京国立文化財研究所研究員) ドリアーノ・スリス (学外 ; 琵琶制作修復師)

①研究の目的

近代の福岡に発祥し、福岡の近現代の街の歴史を色濃く反映しながら、人々の生活のなかに展開し存続してきた筑前琵琶の、現代に至る展開の道筋と現状の調査を通じて、地域社会における音楽芸能の役割や、地域性を帯びた音楽芸能の生成とその表現・内容・興行の特質を明らかにする。そして、筑前琵琶という近現代語りもの音楽の一例自体の再評価と、福岡において昭和後期から平成前期にかけて筑前琵琶文化を支えてきた名奏者の作品や活動内容の調査と情報整理による再評価を目指しながら、音楽芸能が地域社会のなかに生きていることの意義や役割について、多面的に考察を深める。

②研究の内容

本研究は、福岡における筑前琵琶の生成と展開の経緯の再調査、近現代の筑前琵琶奏者たちの芸能活動の幅広い成果の収集と整理、筑前琵琶の伝承や創造の福岡における現状の詳細な把握(楽器制作の問題等も含む)、それらをふまえての独自性豊かな地域の無形文化財としての筑前琵琶の今後の伝承や保存・活用の方向性の探索に繋げようとするものである。同時に、地域の無形文化財である芸能の一例の、伝承の調査や実践活動への参加を通じて、本学で音楽科教員を目指す学生の研究力・調査力・教育力の育成も行うものである。

③④研究の方法・進め方および実施体制

本研究は、福岡での筑前琵琶の伝承と創造をその研究対象の中心に据えるため、まず福岡の関係各所に点在する資料(文献資料・各種記録・楽器資料等)の調査を、研究者自身が収集し精査すると同時に、福岡で現在筑前琵琶の実演や創作を行っている筑前琵琶奏者の寺田蝶美氏とその一門の奏者達に協力を仰いでの調査活動、また福岡で唯一筑前琵琶の楽器制作修復を手がけている(唯一制作修復技術を修得保持している)職人ドリアーノ・スリス氏の伝承と実践の調査、さらに東京国立文化財研究所で国内の伝統音楽芸能を支える楽器や道具の制作修復技術(無形文化財)の調査研究に従事している研究員前原恵美氏の協力も得て、博物館収蔵の楽器の熟覧を中心とした共同調査、といった多方面からの調査研究を実施すると同時に、筑前琵琶が現代の福岡の地域社会の中で生きた芸能活動をおこなっている場に、本学音楽専攻の学生を動員して参加し、教習と体験に与ることにより、筑前琵琶文化を実践的に理解し把握する研究体制をとる。

⑤平成 30 年度実施による研究成果

本年度の研究成果(作業継続中を含む)としては、以下の(1)～(5)である。

- (1) 稀少ながらもいくつか散見できる先行研究、すなわち、地域史研究者や地域の関係者が所持(保存)している記録や調査報告あるいは研究論文などの資料の収集と精読を通じ、筑前琵琶の発祥から大正期の流行に至る経緯を確認した。(年間)
- (2) 現在福岡を拠点に実演と伝承そして創作活動に精力的に従事している筑前琵琶奏者寺田蝶美氏へのインタビューや寺田氏所蔵の筑前琵琶保存会の諸活動の記録資料の閲覧により、昭和期から平成期にかけて

の福岡における筑前琵琶の展開の様子を詳しく時系列に沿って整理する。(平成30年6月・12月に調査活動実施、情報整理作業はその後も継続)

(3) 東京国立文化財研究所の研究者前原恵美氏(無形文化財担当)の協力のもと、技術伝承が途絶える寸前の危機にある琵琶制作修復技術を保護し継承するための、福岡市博物館所蔵琵琶(楽器)熟覧調査。福岡各地から博物館に寄せられて保護された筑前琵琶の楽器の形状等を把握することから、筑前琵琶が発祥から約100年の間に辿った道筋の変化の激しさや筑前琵琶の芸態の多様性、筑前琵琶の展開に関連する人物や場所の広がり等を確認する手がかりとする。(平成30年6月熟覧調査活動実施、情報整理作業はその後も継続)

(4) 福岡で唯一筑前琵琶の楽器制作および修復の専門的技術を伝承しているドリアーノ・スリス氏への、制作技術伝承をめぐるインタビューと、工房の取材を通じ、筑前琵琶文化の生成と展開に楽器制作の問題が大きく関与していることや、具体的に筑前琵琶の楽器制作修復技術の難易度の高さや技術伝承の困難に陥っている現状の確認をした。(平成30年6月インタビューおよび工房訪問調査実施、情報整理の作業はその後も継続)

(5) 筑前琵琶保存会が地元福岡の晴れの場で華やかに活動する場面である博多どんたく祭礼行事(門つけやパレード)に、本学教育養成課程音楽専攻の学生8人とともに参加し、奏者であり指導者でもある寺田氏による教習活動を通じた筑前琵琶音楽の技術習得と音楽性の理解に努めた。そして地域祭礼行事に参加するのに必要な各種物品の手配や心構えを習得したり、それらの活動の記録採集と活動中の関係者インタビューにより、筑前琵琶が現代に生きている実態の実践的把握に至った。(平成31年2~4月に従事)

⑥ 今後の予想される成果(学問的効果、社会的効果及び改善点・改善効果)

研究作業が継続中である⑤の(2)の筑前琵琶保存会および寺田蝶美氏の活動の調査と整理は、保存会組織の沿革の確認や、寺田氏の師匠であり保存会の中心人物として昭和の一時期の福岡での筑前琵琶の展開に多大な貢献を果たしてきた嶺旭蝶の創作活動の膨大な業績の概要を掴めたに留まっているが、今後、嶺旭蝶の業績(創作曲目・創作や上演の機会・関わった多様な業界の人々など)の内容や脈絡をさらに詳しく吟味し整理することで、その成果は、筑前琵琶が福岡の地域社会の文化・経済・政治等と関連した諸活動の中で果たしてきた多様な役割と役割ゆえに音楽面にどのような特質を表してきたか、どこに音楽的価値が生み出されたかを検証することに繋がり、ひいては社会の中の音楽表現のあり方の一例としてモデル化できると思われる。筑前琵琶とその周辺社会の研究は、地域社会の営みのなかで地域発祥の音楽芸能が果たしてきた役割や効果が顕著な例のひとつとして、今後の地域社会における生活や教育において芸能をどう捉えどう生かすか、といった問題にも迫る足がかりとなると考えている。

また、同じく研究作業継続中の、⑤の(3)(4)の楽器の調査や楽器制作修復技術の現状把握については、今後調査結果の一部を一般に周知する実演や講演を伴う展示会の企画について、制作修復技術保持者であるドリアーノ氏と相談中であり、実現すれば、地域発祥の芸能に関する啓蒙普及活動として社会教育的な効果も期待できる。

⑦ 研究の今後の展望

本プロジェクトによる研究活動は単年度で終わるが、プロジェクトテーマである「福岡における筑前琵琶の伝承と創造をめぐる研究」はまだ着手された段階に過ぎない。特に、昭和期福岡の名手の一人である嶺旭蝶を中心とした筑前琵琶保存会の奏者達の、昭和中期から平成期にかけての活発な活動と成果、それを取り巻く社会情勢を、できる限り詳しく脈絡とともに捉えて詳細な記録にまとめ評価すること、そして福岡における筑前琵琶文化の今後の伝承と保存がより有意義で価値あるものとして継続するように、技術

伝達と教育方法の双方の観点において工夫を施すための創案に本研究が貢献できればと考えている。また本研究をめぐる調査や実践的理解の活動に本学の教育養成課程音楽専攻の学生が参加することによって、将来、学校教育現場で地域の伝統文化や伝統芸能にも携わる学生達の、知見の促進拡大や、現場体験(フィールドワーク)活動を通じた実践的調査の手法体得にも繋がり、学生の伝承文化に対する教材研究力や教育指導力の育成や向上も図れると考えている。

⑧ 主な学会発表及び論文等

本プロジェクトの一環として、筑前琵琶の発祥初期から最も流行を極めた明治後半期・大正期にかけての基礎的な史実確認の成果を小論文としてまとめ、愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要『ミクストミュージズ』第14号に投稿した。また、情報整理作業中の昭和から平成期の筑前琵琶保存会の活動および嶺旭蝶氏の業績についてと、⑤の(5)に述べた、本学学生による調査研究への関与を通じた体験(実践)活動の報告と教育意義の検証は、それぞれ、本学紀要への投稿あるいは東洋音楽学会例会での研究発表を目指して準備中である。